

第 7 回 JRS/JCR 医療経済・政策勉強会 概要

(※順天堂大学 隈丸加奈子先生 御作成)

- 日時： 2022 年 10 月 12 日 (月) 18:00~19:20
- 開催形式： オンライン+JRS 事務局のハイブリッド開催
- 参加者： 36 名
- 講演テーマ： 薬価の仕組みとヨード造影剤の今後の展望について
- 講師： 間宮弘晃先生 (京都大学 iPS 細胞研究所)

○講演概要

- ・診療報酬改定と薬剤費
 - 診療報酬は厚労大臣が決定、おおむね 2 年に一度見直されている
 - 診療報酬は技術・サービスへの対価のほかに、物 (医薬品、医療機器) への対価も規定している
 - 高額な薬剤があるにも関わらず総薬剤費は近年横ばいで推移しており、その要因としては①国内市場における後発品シェアの上昇、②診療報酬改定における既存薬薬価の引き下げ、が挙げられる
- ・既取載品の薬価改定について
 - メインは市場実勢価改定。医療機関や薬局に対する実際の販売価格 (市場実勢価格) を調査 (薬価調査) し、その分布に基づき、調整幅 (改定前薬価の 2%) を加えた額を新薬価とする改定方法である
 - 一度取載されたら、その後は基本的に薬価は下がっていく仕組みとなっている
 - 市場実勢価格と改定前薬価の平均乖離率はだいたい 8%前後となっている
 - 薬価制度の抜本改革によって、近年は毎年薬価改定が行われており、結果として既取載薬価の下落スピードが上がっている
 - そのほか、市場拡大再算定 (予想よりも売れすぎたときに価格を下げる制度)、費用対効果評価による薬価の価格調整等がある。

○その他

- ・GE ヘルスケアファーマ(株)の角口氏、堀田氏、久保氏、バイエル薬品(株)の和田氏より、ヨード造影剤のサプライチェーンや価格推移についての情報提供がなされた。

○質疑応答

- ・講師の先生を交え、他国の制度との比較や本邦の薬価制度の課題、ヨード造影剤薬価の今後の展望などが議論された。

(了)